## 松梅蒔絵櫛笥附属品並目録共 一合

【所 在 地】指宿市開聞町十町 1366 枚聞神社

【種別】国指定有形文化財(工芸品)

【指定年月日】昭和2年4月25日



国道 226 号線の開聞町交差点から北方池田湖方面へ曲がり,150m ほど行くと「薩摩一の宮」と称せられた枚聞神社が,こんもりとした森の中に,開聞岳を背にして鎮座している。大鳥居をくぐり本殿に向って右側に同神社の宝物庫がある。この中には神社にゆかりの深い多数の宝物が収蔵されているが,中でも,室町時代の高貴な女性に使われたと思われる化粧箱は,俗に竜宮の玉手箱といわれ保存されている。箱の大きさは縦 25.2,横 31.9,高さ 19.2cm である。箱の表面には漆を塗り金粉をふりかけて,松,梅,鶴,亀などを描いた蒔絵が施されている。箱の中には,円形の手鏡が大小2個,櫛が3個,その他いろいろな化粧道具が入っている。箱に添えられた紙に「大永3年」(1523年)とあり,これ以前に作られたものであることがわかる。

この化粧箱に添えられた記録には「御みついれ1,御くし3,御べにざら1,御たとう紙2,御まゆつくり3,御つのこうかい2,御あぶらつぼ1,御もとゆい1,御はらい, 御びんいた1,御はくがみ1,御かがみ1,御す1,御ふくろ1」と記されている。